

新人発表会に参加して
臨床に則り研鑽していきたい

日時：平成25年4月7日（日）

場所：都市センターホテル



久米 博文（京都府）

昨年一年間通して受講したインプラント100時間コースは大変有意義なものであった。

その後の発表会ということで日頃の臨床から自分の臨床について客観的に見てもらえる絶好の機会だと思い、約二ヶ月前から症例の選考、写真の整理、カルテの見直しを行った。

そこで一つの問題が生じた。講習会で学んだ規格撮影されたものが殆どなく、できていても実像が写っていたり、ぼけていたり、症例途中の撮影が足りなかったりと初めて自分の臨床がいかに主観的に行われていたか痛感し、臨床発表の準備がいかに大変か身に染みて感じた。

試行錯誤しながら発表原稿とスライド、スライ

ドについてはパワーポイントの方は解らない所があったので事務にお願ひし、一応形になった時には数日前まで来ていた。

そこで第二の問題が生じた。プレゼンテーションでタイム測定を行ったとき大幅に時間をオーバーしていたのだ。成功例と予後不良例の二つをしようとしたため、原稿量が膨大になったためである。

もうどうしようもないので所々校正を行い本番を迎えた。

井汲会長の挨拶から始まり、今回の発表会は皆さんの日頃の臨床成果の発表ではなく、インプラント認定医、専門医に向けてのプレゼンテーションの練習の場と考えていただきたい。という言葉で身が



引き締まる思いがした。

1番の演者の方から発表に移り、シンプルながら非常に内容の濃い、しかも写真や資料が綺麗にまとめられていて圧倒された。そして、私事の発表の順となり、内容はインプラントの成功例と予後不良例の考察と骨炎を引き起こす要因について行った。

先ほど記した通り原稿量が多く、それを読み切るというのが精一杯でスライドを見ながら聴講者に伝えることは何一つできなかったかと思う。

進行役の先生からも、症例が二つあり、量が増えてしまったかと思うので、どちらか一本に絞るか、二つのオベを表で対比して簡潔にまとめるかすればよかったですね。と、自分でも気にしていたこと

を的確に指摘されて、今後の反省点としていきたいと思う。

中座に認証医試験と専門医試験の説明があり、中でも昨今のインプラントの問題についてインプラント学会も非常に敏感になっており、学会が必要としている人材としては色々な術式が行えるなどのテクニック面の優れた歯科医師ではなく、理論に基づいた安心、安全なインプラント手術を確実に行える歯科医師であり、試験で行う症例はなるべく簡潔なものを選択するのがいいと思います。という助言をいただき、また日頃の臨床をその精神に則り研鑽していきたいと思う。

発表会の関係者の先生方大変お世話になりました。

